



▼ 無念のNO RACE

前日とはうって変わってスタートから微風の中今年もいよいよ佐井レースの始まり1時間経っても2時間経っても佐井のスタート地点から一向に北へ進路をとれない・・・潮に流され大瀬へ向かうもの、青函レースと勘違いしてかむつ湾へ向かうもの、そしてじっと動かず耐えるものすでにスタートから4時間佐井村がまだ背後に・・・アルサスの見える角度は変わっても建物の上についてる三角がくっきり見える。(青森県はなぜ?三角が好きなのだろうという疑問が吹き出し結論は青森の森の字が三角形に似ているからではないかと結論が出た。)

先行艇を見てもそれぞれタック方向が微妙に違う、灯台の気象情報を得るも南東から南南東の風弱し、いったい風はどこへ行った?

タイムリミット前のフィニッシュは無理・ムリ・絶対ムリ! 当艇の艇長はすでに洞穴(オーナーズバー)で深い眠りに・・・今から機走で帰ってもパーティーも危ういぞ!(心の声「早く誰かリタイアしないのかな?」)思っていたその瞬間「勸進丸。勸進丸。こちらギャロッパー・・・」言うまでもない待ちに待ったリタイアのコール。

その後次々とリタイアを宣する無線が・・・「あ～良かったこれで帰れる」ということで我が艇もリタイアを宣告し船首を矢越方面へ・・・昨日プロペラを落とした「うみまる」の曳航のため向かったがタッチの差で「D-bros α」がすでに曳航を始めていたのでその2艇の横をスルーするその時すでに日が落ち始めポンツーンに着いたときは17:00を大きく回っていた。

昨年に続き2連覇を目指し意気込んだ今回の大会。全艇フィニッシュ出来ずラッキーだったのかも・・・また来年第38回大会へ向け楽しみが一つ増え今日海象とは真逆に心の中には大嵐が吹き抜けていきました。
PEGASUS 田中 仁

納会レース収支報告

収入	42名×2, 000円 (男性)
	3名×1, 000円 (女性)
	87, 000円
支出	保険 4, 800円
	食費 41, 185円
	飲み物 19, 362円
	雑費 1, 753円
	車代行 3, 000円
	(食糧搬送、住吉シェフ)
副賞	16, 000円 (Tシャツ代4チーム)
	86, 100円
残金	900円 (レース委員会へ)

納会レースの結果は次号へ

アンカーライト

港放浪記 第23話「小島港」

松前の南西13マイル沖に浮かぶ無人島「小島」。

その昔、小島レースがまだ続いていたころ何回か小島を回っていたがレースでしか行くこともなかったの港へ入ることもなかった。

その後仕事の都合で江差へ住むこととなり数年間「LUCIA」を江差マリーナに置いていたが、函館へ帰ることとなり回航途中に初めて小島に入港した。忘れもしない2001年の春である。好天で風もよく島が近づくにつれなにかこう南洋の見知らぬ無人島にでも近づくような興奮を覚えながらもあっけなくすんなりと入港した。港内は防波堤の高さが当時としては異様に高く、さすが絶海の孤島という感じを漂わせジュラシックパークよろしく恐竜でも住んでいそうな雰囲気を感じさせていた。

その当時はまだ島に漁業監視員として道から委託されたI夫妻が在島しており、気を取り直しすかさずI氏のところへ酒持参で入港の旨を伝えにご挨拶に伺った。いかにも酒好きそうなI氏はまだシラフと見え斜路に揚げた磯船のなかで網の繕いをしていた。仁義もそこそこに早速酒宴の支度にとりかかりヤキトリとビールで人心地ついた我々3人は島の探検に向かい、幸い恐竜と遭遇することもなく無事に戻り小島灯台の脇に腰を降ろし、大島沖を通る日本海フェリーといままさに沈まんとする太陽を飽くこともなく眺めていたものであ

る。やがて遠く沖合にイカツケの灯りが点りとっぷりと暗くなり静寂そのものの島の夜と灯台のゆらめきを肴に島に第一夜は静かに更けていった。

翌朝ハルにあたるゴンゴンという音で起きてみると、I氏が磯船でやってきて獲れた魚を置いて行ってくれた。灯台の風力発電機がビュービューと回り、沖はヤマセでウサギの飛び放題でとても出れる状況ではなく今日はテケミとした。クルー2人は山頂へ恐竜を探しに、おいらは艇で待機しているとクレーン船が入ってくるのではないかと行ってみるとNHKのお昼の番組用のTV中継車を運んできたとのこと。クレーン船は松前の「すがわら丸」で夜はクレーン船に呼ばれて乗組員のみんなとI氏夫妻を交えての大宴会となった。ネイティブな松前弁の飛び交うなか激しく盛り上がりすっかりゴチになって艇に戻った。

翌朝5時に出航した我々に汽笛を鳴らして送ってくれた。まこと有難かった。

(その後2012年のクルーズで4艇で再訪したが港内はおろか港外にさえ魚貝類が姿を消していたのは謎である)

おかみさ～んそろそろ冬支度の時期ですよ!